

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成20年 4月26 日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4672300078
法人名	医療法人 孝仁会
事業所名	フレンドリーハウス のぎく
所在地	鹿児島県南さつま市笠沙町赤生木11372-397 (電 話) 0993-63-1210
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年4月26日

【情報提供票より】(20 年 5 月 2 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 9 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	理美容オムツ等実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4)利用者の概要(5 月 2 日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大迫医院、加世田病院、松岡歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体である老人保健施設の裏手に建てられているものの、ホーム専用の入り口があり、草木や季節の花が植えられており、季節感や生活感のある親しみのもてる雰囲気である。一方で老人保健施設の医師や看護師、介護職員との連携がとれており、特に医療面に関しては家族からの安心感につながっている。管理者と職員は利用者が笑顔で過ごすことができる穏やかで楽しい生活を何より大切にしており、その生活を支援するために建設的で活発な話し合いが行われている。地域住民からの協力を得られる機会も増え、災害時等の協力体制も整備されている。利用者の表情は穏やかで明るく、笑顔にあふれおり、普段からの職員と利用者の関係づくりが極めて良好であることがうかがわれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の啓発について、近隣住民の見学やお茶のみの会の機会が増えており、折にふれて運営理念について説明している。情報の確実な伝達について、新たに申し送りノートを作成して情報の共有に努めている。研修体制については、定期的に十分行われているとは未だいいがたい状況なので、今後も引き続き段階に応じたスキルアップの機会づくりに取り組んでほしい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価にはすべての職員がそれぞれ取り組んでいる。すべての項目を職員がチェックすることにより、ケアの振り返りや見直し等のきっかけになっている。また職員がそれぞれ自らの課題やホーム全体で取り組むべき課題を発見することにつながり、改善に向けた話し合いの契機になっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には市町村担当者が出席しており、問い合わせ等が気兼ねなくできる関係はできているが、ともに質の向上に取り組むことができるまでの連携がとれているとはいえない。運営推進会議以外に行き来する機会を作ることが困難な状況であることは理解できるものの、ホームの現状を知ってもらい、実態や課題を共有しながら共に質の向上に取り組めるような関係作りに努めてほしい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族にはホーム便りを送付し、利用者の暮らしぶりについて定期的に知らせている。個別の健康状態や金銭管理の状況については家族が来訪したときに説明している。遠方にいる家族にも電話で報告している。普段から管理者や職員に対して家族が意見を言いやすいように努めているため、要望などは家族から頻繁にでている。苦情に関する第三者委員もおり、直接言いにくいケースにも対応できるよう配慮している。出された意見については職員で改善方法を話し合い、その都度速やかに対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育所や小学校を鑑賞したり、地域のお祭りや家族関係者が開催する踊りの発表会に参加するなど、地元の人々と交流する機会がある。地域で組織している福祉部の方がホームに訪ねてくることもあり、交流の機会は以前より一段と増えてきている。

調 査 報 告 書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設当初に事業所独自のものを作り上げているが、地域密着型サービスとしての役割や地域の中で暮らしを支え続けるサービスである考え方は盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスに位置づけられていることを確認し、「地域のなかでその人らしく生活することを支えるケア」の具体的なイメージを持ちながら理念について再度検討してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で理念について具体的に掘り下げて話し合う機会を設け、現在の理念についてはその浸透と実践に努めている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所や小学校を鑑賞したり、地域のお祭りや家族関係者が開催する踊りの発表会に参加するなど、地元の人々と交流する機会がある。地域で組織している福祉部の方がホームに訪ねてくることもあり、交流の機会は以前より一段と増えてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にはすべての職員がそれぞれ取り組んでいる。すべての項目を職員がチェックすることにより、ケアの振り返りや見直し等のきっかけになっている。また職員がそれぞれ自らの課題やホーム全体で取り組むべき課題を発見することにつながり、改善に向けた話し合いの契機になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者や認知症に関する有識者、民生委員、家族代表、利用者が参加して会議は開催されているが、定期的に行われておらず、会議で出された意見を運営に反映し、質の向上に活かしているとは言えない。	○	現状として1年に2回しか運営推進会議が行われていないので、より定期的に行うことが求められる。また運営推進会議で出された意見等については職員と内容を検討し、必要に応じて具体的な解決策に取り組んでほしい。会議の開催がサービスの向上につながるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市町村担当者が出席しており、問い合わせ等が気兼ねなくできる関係はできているが、ともに質の向上に取り組むことができるまでの連携がとれているとはいいいがたい。	○	運営推進会議以外に行き来する機会を作ることが困難な状況であることは理解できるものの、ホームの現状を知ってもらい、実態や課題を共有しながら共に質の向上に取り組めるような関係作りに努めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にはホーム便りを送付し、利用者の暮らしぶりについて定期的に知らせている。個別の健康状態や金銭管理の状況については家族が来訪したときに説明している。遠方にいる家族にはまめに電話で連絡し、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から管理者や職員に対して家族が意見を言いやすいように努めているため、要望などは家族から頻繁にでているものの、大きな苦情に至っていない。苦情に関する第三者委員もあり、直接言いにくいケースにも対応できるよう配慮している。出された意見については職員で改善方法を話し合い、その都度速やかに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は普段から職員の交代ができるだけ行われなように母体法人の人事担当者に働きかけており、これまでやむを得ない場合以外の職員の交代は一切行われていない。交代がある場合でも利用者が新しい職員に混乱なく馴染んでいけるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者については管理者が一定の研修を行っているが、すべての職員が定期的に法人内外の研修を受ける機会が確保できていない。	○	サービスの質の向上には職員の質の向上が不可欠であることから、理解や実践の習熟度等に応じて段階的に力をつけていけるように、事業所内外での学びの機会を確保することが求められる。外部で行われた研修については出席できなかった職員についてもその内容を周知するような取り組みも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問を行ったり、研修や勉強会の機会を利用して他事業所との交流の機会がある。母体法人の他事業所の職員との懇親の機会があるために、互いに相談できる関係づくりもできている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は利用開始前に利用者に関する情報収集を行いながら、利用者や家族と話をする機会を作っている。他の利用者との関係づくりもスムーズにいくよう、職員がうまく間に入り、様々な活動を通じて雰囲気に自然に馴染めるように最大限配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は利用者と職員がともに笑顔で過ごせるような生活を何よりも重視しており、単に介護する、介護されるような一方的な関係にならないように常に職員にも注意を呼びかけている。家事や畑仕事に関しては特に職員が利用者から助けてもらう場面も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に一通りの希望や意向を把握し、その後は利用者との会話の中や、家族がホームに面会に来た場合などに話す時間をとりながら、希望の把握に努めている。本人から話をきくことが困難な場合でも家族と相談しながら本人本位に検討できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普段から職員が気がついたことは計画作成担当者にそれぞれ伝えるようにし、家族にも希望等を確認した上で、計画を作成している。必要に応じて看護師や医師などの意見も参考にしながら利用者本位の計画を作成できるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しはもちろんのこと、状態に変化が生じた場合は、期間の終了以前でも計画の見直しを行っている。その際も利用者本位となるように家族や関係者の意見を反映させ、多角的な視点で計画を作成できるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診や買い物、散髪などの外出の支援は必要に応じて日常的に行っている。墓参りの付添いなども家族の状況や利用者の意向に配慮しながらできるかぎり対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人に従事する医師がかかりつけ医である。管理者および職員は医師と顔なじみであり、普段から気軽に医療面の相談が可能である。母体法人の医師や看護師との連携は家族の安心感につながっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	隣接する老健に勤務する医師や看護師と連携をとりながら、重度化や終末期の対応について具体的な話し合いが行われている。実績はいまのところないが、家族や利用者からの希望があれば対応できる準備は概ねととのっており、関係する職員全員で方針についても共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士が互いに気になる言動を注意し合いながら常に利用者の誇りを損ねないような支援を目指している。身体介助が必要な場合には羞恥心にも配慮するよう常々気をつけている。記録物の保管、秘密保持も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のだいたいの流れは決まっているが、食事や入浴の時間などを一方的に仕切るのではなく、その日の体調や希望、意向などを大切に、ゆとりのある支援を心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから買い物、食事の準備などを一緒に行い、職員と利用者は同じものを同じテーブルで食べている。後片付けにも一緒に取り組んでおり、食事は楽しみ事の一つであり、また、大切な活動の一つになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を職員の都合で決めつけてしまうことがないように利用者の希望する時間にできるだけあわせられるよう工夫している。職員の勤務時間にも配慮しており、夕方の5時以降の入浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴を活かして、家事や畑仕事、動物の世話などを行い、それぞれの利用者が役割や楽しみごとをもてるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブに出かけたり、季節の行事・地域の行事に参加する機会がある。希望に応じて墓参りに同行するなど、外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な暮らしを支えるためにさりげない見守りを行っており、玄関にもベランダから庭につながる窓にも鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行い、近隣の住民にも協力を得られるように働きかけ、夜間を想定した訓練も行われている。災害に備えた備蓄も定期的にチェックしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の嗜好に配慮しながら作成し、定期的に栄養士の専門的な観点からアドバイスを受けている。一人ひとりの栄養摂取量や水分量を大まかに把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングテーブルの隣はソファで寛げる場所が確保され、目の前にはデッキが広がっている。さほど広い空間ではないものの、あたたみのある調度品、季節感を取り入れた装飾品がおかれており、家庭らしい空間づくりができています。キッチンまわりは利用者にとっても使いやすい雰囲気であり、親しみやすい生活感のある共有空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からの協力を得ながら、なじみの調度品や愛用しているもの、大切な家族の写真などを持ち込んでもらい、居心地のよい居室づくりに配慮している。協力を得られにくい場合は、使い慣れたものを持ち込むことの大切さを家族に繰り返し話して理解してもらえるよう努めている。		